

TOP INTERVIEW

理事長インタビュー

地域経済を支える 「要」としての 役割を果たすことで 地域に貢献し続けます。

地元の中小零細企業に寄り添い、本業特化のシンプルな経営を地道に続けている広島市信用組合。その堅実な経営方針と将来の展望について、山本理事長にうかがいました。



決意を新たに、地元の活性化に一層貢献。

◎広島の地域経済についてどのように見えていますか？

今春から行われてきた日米の関税交渉は、従来と比較して高税率が維持される内容で合意に至り、大きな節目を迎えました。これにより日本経済、とりわけ自動車産業を基軸とする広島地域経済において、サプライチェーン（供給網）を構成する中小零細企業の経営にどのような影響を及ぼすのか、予断を許さない状況が続きそうです。今こそ地域金融機関としての存在意義を発揮する時であり、地域を支えるという強い信念を持って取り組まなければなりません。このような不安定な経営環境だからこそ、資金繰りに苦しむ地元の中小零細企業のご要望に真摯に応えていくことは当組合の使命です。今年は被爆80年、困難を乗り越え復興を遂げてきた広島歩みに思いを馳せれば、私たちも決意を新たに逆境を力に変え、地域の未来を切り拓いていかなければなりません。本業特化の経営を継続していくことで地域における存在感を高め、地元の活性化に一層尽力いたします。

◎そうした中、22期連続の増収となるなど業績が好調のようですね。

おかげさまで、令和7年度上半期決算において、経常収益は22期連続の増収となり、経常利益、当期純利益とともに過去最高を更新しました。当組合がこうした業績を残すことができたのは、投資信託や生命保険の販売には目もくれず、「預金」と「融資」の本来業務に特化したシンプルな経営を地道に継続しているからです。またバルクセール（不良債権の一括売却）を積極的に実施し、資産の健全性がより強固となるよう努めています。これは、毎年取得している株式会社日本格付研究所（JCR）の長期発行体格付にも表れており、この5月に信金・信組業界ではトップクラスの「A+」（シングルAプラス）を継続取得しました。このビジネスモデルは各方面で注目されており、今年も多く金融機関が視察に訪れています。こうした高い評価を糧に、今後も地域のため、お客さまのために本業特化の経営に磨きをかけてまいります。

「会って話せる」という現場主義が最大の持ち味。

◎ 本業の中でも特に重視している業務は何ですか？

融資です。地元で集めた預金を地元の中小零細企業や個人のお客さまに融資することが地域金融機関の務めと考えます。とりわけ中小零細企業の多くは原材料価格の高騰や人手不足、トランプ関税などの要因により、日々の資金繰りに苦慮されています。お客さまが苦しいときこそリスクテイクし、手を差し伸べることが大切です。どのような状況下においても、お客さまと正面から向き合う。その姿勢がなければ、真のパートナーとして認めていただけません。常にお客さまの目線に立ち、今何を必要としておられるかを的確に理解し、スピーディーに対応していくことが重要だと考えます。

◎ お客さまの目線に立った対応をする上で大切にしていることは？

現場を歩いて、歩いて、歩き抜くことです。お客さまと真の信頼関係を築くためには、お客さまのことを知らなくてはなりません。その要となるのが「フットワーク」と「フェイス・トゥ・フェイス」です。お客さまのもとに足繁く通い、常日頃から顔を合わせておくことで、小さな変化にも気づくことができます。こうした営業スタイルは一見世の中の流れとは真逆と思われるがちですが、当組合の「会って話せる」という現場主義は最大の持ち味であり、他の金融機関では簡単には真似できない独自のスタイルであると自負しています。

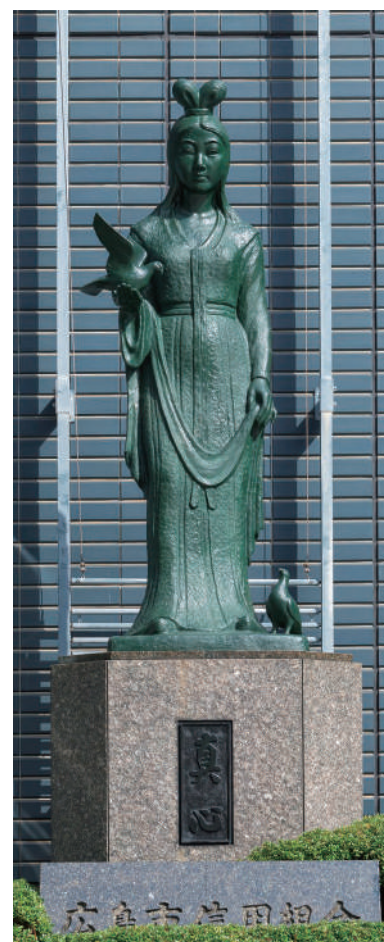
リニューアルはお客さまが便利で快適にご利用いただくために。

◎ 店舗リニューアルも着実に進んでいますね。

おかげさまで9月16日(火)、南支店が新築移転オープンしました。オープンまでの間、役職員が一丸となってローラー活動を行ったことで、新たなお客さまとの取引が大幅に増加しました。また12月には鷹の橋支店の新築移転オープンを控えているほか、来年オープン予定の戸坂支店、令和9年の古江支店、その後も向洋、大河、江波、出島支店の新築移転と安支店の建替を計画しています。このリニューアルは来店されるお客さまが便利で快適にご利用いただくために行っており、新店舗に新設した全自動貸金庫はオープン日までに全て契約済となっています。また増設したATMも利用件数が増加するなど、リニューアルの意義は想定以上に表れています。またリニューアル店で継続して行っているオープン周年運動は、地元のお客さまとの信頼関係をより深める絶好の機会となっています。

◎ 業務を行う上で大切にしていることは何ですか？

コンプライアンスが全ての基本と考えています。お客さまの命の次に大切なお金と、これに関わる情報を扱う金融機関にとって、コンプライアンスを軽んじることがあってはなりません。信頼を積み重ねることは地道な努力が必要ですが、失うのは一瞬です。たったひとつのコンプライアンス違反で組織の屋台骨が大きく揺らぎます。先述したバルクセールを積極的に進められるのも、お客さまとの強固な信頼関係があってこそ。一件たりともトラブルがないのは、誠実な対応と情報提供を貫いているからだと考えます。今後も役職員一人ひとりが襟を正し、どのような場面においても正々堂々と取り組みます。



「真心」の像

◎職員目線の取り組みも積極的に行っていますね。

当組合では、職員の待遇改善を着実に進めています。働き方改革が叫ばれるよりも前から労働時間の管理、給与の見直し、定年延長などに積極的に取り組んできました。特に女性職員の登用には力を入れており、10月1日時点で女性職員における役付者の割合は49.7%にのぼり、育児休業からの復職率は96.1%。今後は、男性職員の育児休暇を奨励するほか、デジタル化・IT化による業務効率の改善などを推進し、職員がこれまで以上に気持ちよく効率的に働ける環境づくりを目指します。こうした取り組みを続けているのは職員一人ひとりがかけがえのない財産であり、当組合の今後の発展に欠かせない大切な存在だからです。また、人材育成にも力を入れており、店舗の移転オープンにおけるローラー活動もその一環と捉え、融資によって地域に貢献できる「融資大好き人間」を育成します。お客さま訪問は営業の基本であり、現場で得られる経験に勝るものはありません。私自身、理事長に就任以降、今日までお客さま訪問を継続してきました。支店長をはじめ各職員がこれまで培ってきたノウハウを部下や後輩に伝えていながら、今後も現場主義の営業活動を継承していきます。また休日勉強会や外部研修などを積極的に開催することで、自己研鑽に励む個々の職員をフォローし、お客さまの要望に的確に応え、信頼に応えられる職員を育成していきます。これからも当組合が地域になくてはならない存在であり続けるために、若手職員を中心とした人材育成に全力で取り組みます。



ローラー活動



ミーティング

一人ひとりの自信と成長が飛躍していくための原動力。

◎今後の目標を教えてください。

ネット銀行の台頭により金融環境が大きく変化する中、「金利のある時代」へ大きく転換したことにより、各金融機関の間で預金獲得競争が激化しています。こうした中、当組合はブレずに本業特化の経営方針を愚直に継続していくのみです。当組合の職員ほど地元の中小零細企業を訪問している金融機関は他にありません。足を使った営業は一見非効率に映るものですが、これが足腰の強さになり、結果的に高い効率を生み出すのです。こうした地道な営業活動がお客さまの安心につながり、取引の深耕につながります。この長年にわたって築いて



南支店オープン当日のにぎわい

きた地域のお客さまとの深い信頼関係は強固であると認識しています。今年のスローガンは、「継続は自信を育む」。これから先、様々な壁にぶつかり、思うような結果が得られない時もあると思います。しかし、どんな時もブレずに努力し続けることが大切です。努力して得た成果はたとえ小さなものであっても成長を実感でき、自信につながります。困難に立ち向かい、それを乗り越えた時、人はさらに成長し自信も揺るぎないものになります。一人ひとりが自信を深め、成長していくことがさらに飛躍していく原動力になると確信しています。今後も地域の発展に貢献していくためには、さらなる財務基盤の強化が不可欠であり、内部留保をさらに積み増し、1千億円の大台を目標に取り組みます。これからもお客さまとともに成長を続け、地域が元気になるよう、役職員一丸となって邁進してまいります。

〈 格付「A+」継続取得 〉

当組合は、令和7年5月に格付機関である株式会社日本格付研究所(JCR)より
長期発行体格付「A+」(シングルAプラス)、格付の見通し「安定的」を継続取得しました。

1 格付機関

株式会社日本格付研究所(JCR)

2 格付対象

長期発行体格付

※長期発行体格付とは、債務者(発行体)の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。

3 格付

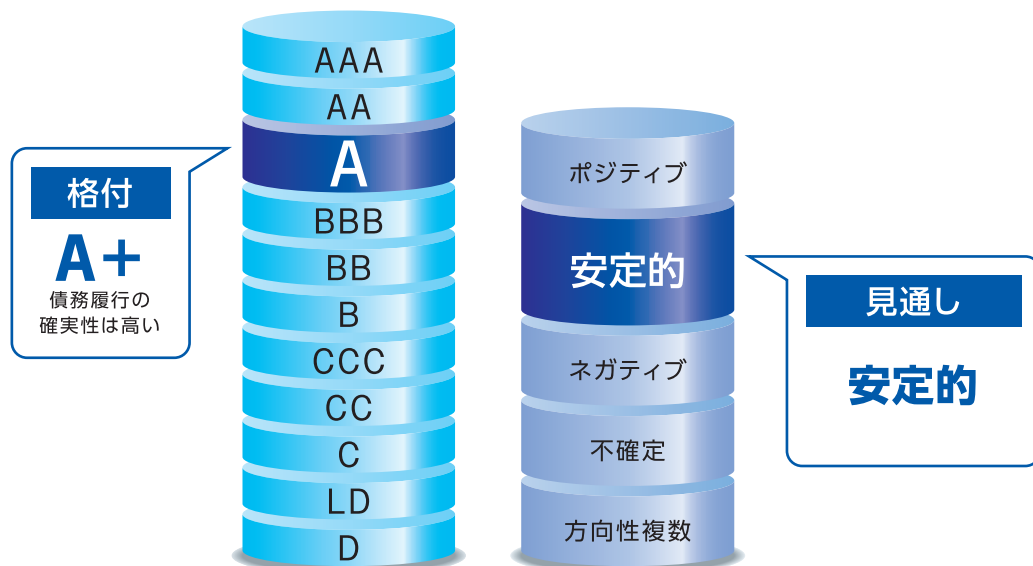
A+(シングルAプラス) 見通し「安定的」

※A(シングルA)は、株式会社日本格付研究所の11段階の格付等級の上から3番目にあたります。

※格付の見通しは、長期発行体格付が1～2年の間にどの方向に動き得るかを5つに区分して示すものです。

4 取得の目的

外部からの客観的な評価である格付を取得し、お客さまや組合員の皆さまにディスクローズすることで、透明性をもった経営を進め、財務内容の健全性をより理解していただき、信頼性を高めることを目的としています。



参考:JCR長期発行体格付の定義

AAA 債務履行の確実性が最も高い。

AA 債務履行の確実性は非常に高い。

A 債務履行の確実性は高い。

BBB 債務履行の確実性は認められるが、上位等級に比べて、将来、債務履行の確実性が低下する可能性がある。

BB 債務履行に当面問題はないが、将来まで確実であるとは言えない。

B 債務履行の確実性に乏しく、懸念される要素がある。

CCC 現在においても不安な要素があり、債務不履行に陥る危険性がある。

CC 債務不履行に陥る危険性が高い。

C 債務不履行に陥る危険性が極めて高い。

LD 一部の債務について約定どおりの債務履行を行っていないが、その他の債務については約定どおりの債務履行を行っているとしてJCRが判断している。

D 実質的にすべての金融債務が債務不履行に陥っているとJCRが判断している。

※AAからBまでの格付記号には同一等級内での相対的位置を示すものとして、+(プラス)もしくは-(マイナス)の符号による区分があります。